（十二日夕刊）

磐城新聞

休刊日 第一第三日曜
定價 一ケ月 六十錢 郵税十五錢
廣告料 壹行六十錢 指定廿錢増
發行兼編輯印刷人 鹽沼龍輔
福島縣平町田町十六番地
發行所 磐城新聞社
電話五六四番

雜感□□□

平　一谷口安比呂

懸賞募集等で、當選した者はよいが、落選した多くの者は面白くない、寧ろ厭な感じがする……應募者は凡てに對し繪葉書一枚でもいゝ、薄謝を呈する位の厚意を持てたら此の世は全く住みよからうと思ふ。

□

此の世は頼り頼られて保つてゐる、チグハグになつたら所謂尖鋭化とか殺氣を帶びたとか言つて大騷ぎする。其れが嫌だから趣く所餘裕ある者から社會奉仕とか、大衆の爲にとか他の爲に働く、これが人間性だらうと思ふ。昔から佛家に「報謝の生活」といふ言葉があるが、其れでは古臭い、やはり社會正義による奉仕と言つた方が耳ざはりいゝ。

□

ポンプがあるから使命が全うし、其の威力を發揮する事も出來るので、もし掛口もなく蒸氣なり瓦斯なりを焚いたら、機關が破裂して了ふだらうと思ふ、此意味に於て、人間の心にも自由の吐け口が必要な事が分る……家庭では惠まれず、社會では壓迫されるといふのでは、誰しも、社會主義か共産の夢想に傾きやすい。

□

「一人殘らず滿足するが當」とも「此の世は滿足が臺」とも聖言にある。無理な事では永續しない。學校も新聞社の存在も、必要で滿足を與へるゆゑ、認められるので有らう。

子供は時期が來ると、親の寄生的生活から離れて勇ましく獨立自營の生活戰に立つが、其れでこそ人生の意義があるので「いゝ人だ」「惜しい人だつた」とか言はれるや。其れだけ自身に光が添ふと言ふもの「あんな奴」「ろくでなし」と批難されるのでは、死んでも浮べるものでない。

□

極樂といひ地獄といふも其は此の世の出來ごとだらうと思ふ、單に肉體の、物質のみの問題でなく、自分の心をジッと見つめて居ても、煩悶の時は地獄を感じ愉快の時は極樂を思へる、平凡人には此の世は平凡にしか寫らぬが、少し修養を積めば、誰しも不思議な世界、神秘な世界に氣付くで有らう、例へば、食べた飯が自然と目玉となり、手足となつて、子供が育つたり大人が運動したりする樣に此の世こそ天國のやうな、奇術の實驗場たるに氣付くで有らう。

□

「人間萬事塞翁の馬」此の語は耳にタコよるほど聞かされるが、仲々わかりにくい、人は兎かく目先に囚はれ「まア金になるなら」とか「そうは御禮だせるものでない」とか言つて、自分の都合いゝ樣に立廻る。損しても得したと言つても見へすいた現實ばかりで、昔の聖賢の樣に、一生棒に振つても來世の幸福をつむ等はない。

其れでも夫婦道を守るとか、立派に子供を愛すとか言ふな、善人に違ひないが時々裁判等で、近親が財産を爭ふだから嫌になる。まあ〳〵人は信用を重んじ月末には掛の拂ひもよくし圓滿な人格と愛嬌でも振蒔いて居れば、無難で心配もないと言はるのだらう。

明日の吉凶

舊暦六月十九日　新暦八月廿一日

▲一白の人　待てば甘露の日和も來る物事焦るべからず▲二黒の人　陽氣立たず陰氣勝にて物事の速成せざる日▲三碧の人　氣を荒立つる時は凶に走る普請動土は見合せ▲四綠の人　辛苦は常の事と思ひて心緩めぬが肝要なり▲五黄の人　小事より大事を生じ易き日萬般に亘り注意▲六白の人　此まで滯り居りたる事も追々解決に近ずく日▲七赤の人　口を愼まざれば後日に變ひを殘すことあり▲八白の人　午前は吉なれども注意せざれば午後失敗す▲九紫の人　盛運の吉日なり但し本分を忘るれば失敗す

講談　赤鞘安兵衛

東京　桃川燕二演　村田月光畫

（二十二）

黒田鄕藏は必死の權幕であります——「幾ら仰せられても手前の胸には落ちぬ事柄、お歸りなくば手前の方から御免を蒙ります、御ゆつくり遊ばしませ」と、おみつは立上つて我部屋の方へ行かんとします——「待て、待つた?」あれ狀などを捉へて、何となさるた積りでありますか」パッとその手を拂つて、横手の唐紙を引明けます——「えゝどうなるものか、此の上……」はキラリと光る秋水三尺は時ならぬ稻妻——此の体を見て驚いたる下女たつる——「あれッ、黒田樣が氣が違つた氣違ひだ〳〵助けてた呉れと」金切聲を張上げて、バラ〳〵〳〵夢我夢中で飛出します、主人大事と云ふのも、顚倒した頭には處置の判斷が付かない、眞ッ暗三寶、菅野六郞衛門の道場へ飛付けます、武者小路の角を曲らうとした時に、パッタリ人に突當る——「うろたい者何んとした」……「御免なさい一大事が出來ました」——「待て〳〵其方は鶴ではないか」……「ヘエ〳〵おつるで……一大事〳〵」……「待てと云ふに待たんか」と、後から帶際を捕へます……「放して下さい、一大事〳〵」……「一大事は判つた、何が一大事だ」……「ハイ一大事だから一大事で」……「わからん奴だな、拙者の顏を忘れたか」……「ねッ是れは若旦那樣、今日は……」——「困つた奴だ、その一大事を申せ」たつるは始めて我に返りしまた——「ねゝ御新造樣でた氣がお狂ひなさいまして」……「ナニ母上が氣が狂つた、ハテな」——「イエ違ひます、氣の狂つたのは黒田樣で」……「黒田で氣が違つてどうした」……「御新造樣にた斬り付けになりました」……「黒田は親切な男だ、左樣な次第があるべき筈がない、何かの間違ひだらう」とは云つたが安兵衛武庸、何しろ下女たつるの樣が餘程あわてゝ居ります、何か事が起つたとだけは察しが付きます、刀の柄を押へて飛ぶが如く我屋敷へ立戾ります、

此方は黒田鄕藏、鞘走つた刀は無論おどしの爲めであります、左まで强情なたみつでも、其處は女だ光るものを見たならば、夫れに從ふに相異ないて我が意に從ふに相異ない、たどしも女を口說く手だ其んな筈はないが、兎も角も惚れた女、敢て殺さうと云ふ心もなかつたのでありますが、逃げるおみつの袂を捕えて引戾さんとする然うはさせまいとする、女も雖も氣が張り詰つて却々力もあります。一方は拔き身を持つての爭ひだから堪まりません、誤つておみつの鞘腹へグサと突立てました——「あッ、黒田樣、あなたは私をお殺しになるお積りですか」——「ねッ判手が狂つたか是非に及ばぬ」是非に及ばぬ事はないが日本人の多くは血を見ると狂暴になります、歐米の人は血を見るとたびみて勇氣を失ふそうだが、日本人は血を見ると强くなる……狂暴……には違ひないが是れが特前で戰爭に强いのも茲にあるので有りませう——「お恨みあるな、其許一人は殺さぬ死ぬほど惚れた拙者だ、追ッ付け拙者も後から參る、觀念さつしやい」と云ひます。黒田鄕藏は腕前に相當の嗜みがあります、死ぬ時には氣休めを一ッ呉れる、夫れは此の世に念を殘さぬためだそうです、罪人等を切るときにヤッと云つて拔き身を目の先に突き付ける、アッと驚く途端に首をバッサリやる斬らうすると斬られる奴が目の前の刀に氣を取られて邪氣が拔ける、斬るものを恨むと云ふ念が緩んだところを斬るのだそうです、鄕藏もその呼吸を心得——たお前ばかりは殺さぬ、拙者も後から死ぬ……死んで詫びをすると言はんばかりの事を言つた。

この欄への投書をカンゲイします。なんのキタイもありません、諸兄の活躍にまかせします。

鹽豚販賣
ハムよりうまい
田町　三二三屋

貸切は（料金低廉な）磐城タクシーへ
電話四五四番
平驛前

診療　夜間
胃腸　梅毒
內科　十二指腸虫病　專門
淋病　婦人病　皮膚病　專門
內科部　外科部
松村胃腸性病科醫院
（平南町電話一〇七番）

生花教授
家元龍生派池坊
生花、盛花、投入自然
營業では御座いませんから趣味で御相手致し度うございます
平町仲町三（電話六二五番）
華道教授
天水庵　岡田華悅

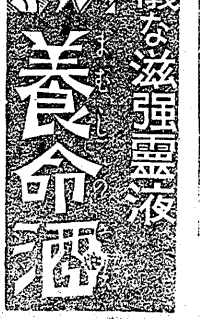
近來本礦が隣山礦區を侵掘なし賠償金の請求を請けし如き惡宣傳をなす鼠賊的卑劣漢のある事を耳に致し候も全然事實無根なるは勿論要するに右の如きは多年某主を僞瞞し私腹を肥し居り候惡漢が積惡の報にて解職と成りしを怨み私怨に堪へず犬糞的行動を敢てする某醜類一派の策動に有之候條寧ろ彼等の內心を御洞察下されて憫然の輩と御一笑に附し下被度本紙を通じて謹告仕候

昭和五年八月十一日
杉山礦長　薄葉富保

平町田町本通り
市原醫院
電話一一四番

平町紺屋町
藤沼醫院
電話五〇七番

品質本位
蜂ブドー酒
佛國の葡萄
佛國ボルドー產の最高原料を以て最新の學理と優秀の技術の下に醸られた美味と滋養の蜂ブドー酒は人體になくてならぬ榮養素の總てを籠めたものであります
發賣元　東京本町　近藤利兵衛商店
醸造元　東京淺草　神谷傳兵衛本店



其の白熱的賣行は何を物語るか?
左の病む人々に勸む
一、肺病、ロクマク、神經衰弱、胃病、婦人病、營養不良、に對する特異の靈効を有す。
直ちに御試用を乞ふ。
平町五丁目角
縣下一手販賣店　山野邊藥局
定價　試用分　一、二〇
約廿日分　三、〇〇
約四十日分　四、〇〇

夏向の
小供洋服生地と
新柄レース　一寸巾から二尺巾まで
澤山入荷致しました
婦人手藝材料
ハシモトヤ糸店
平町田町

平上水道工事の委員奪取で
又見苦しい闘争開始か
廿日頃町會召集

上水道擴張の實現で喜びの平町では二十日前後に町會を招集し擴張工事の一切を協議することゝなり同町會に於いて九名乃至十一名の水道擴張工事委員を擧げることに内定してゐるが、これを知つた一部町議間には早くも水道委員を目指して猛運動を開始する者も現れた程で委員決定迄には一波瀾を惹起すものと豫想されて居り町議中水道擴張に執拗な反對を續けてゐた野崎氏等六名は此の委員任命から除外するのが當然であるといふ萩原氏を中心とする反野崎派の民政議員と政友系各派の提携を強硬に主張し水道擴張派委員を獨占せんと畫策するものもあり之れに對し野崎派六名は反對を打切つた以上擴張派と同等異る所なしと是れ亦委員割込み運動を試み町會招集を前に平町會特有の見苦しい闘争の空氣が濃厚に漂ひ始めたので注目されてゐる

吉田呉服店が四倉に出張
大賣出し

四倉町字新町鈴木屋旅館側に於て來る十二日より三日間平町字鍛治町吉田屋呉服店が出張大賣出しを開くが特賣品の主なるものは本場銘仙三、五〇、モス着尺二五〇、紡績布團地(上)七〇錢、敷布團二枚七十錢、實用無比千里地下足袋七三錢、縮シャツ一枚二五錢、白キヤラコ足袋二足一九錢、其他豐富に取揃へ有る筈

傾城トンネルの修復工事擧行
工費十萬八千圓で
けふ盛大に起工式

常磐線湯本、綴驛間の大破した傾城トンネルは久原工業宮長平作氏が請負ひ工費十萬八千圓を投じ過般來これが改修工事準備中のところ今十二日午前十一時から同所に於て工事關係者四十名を招ぎ盛大なる起工式が擧行される筈である、右工事に就き該土の捨場には相當擴大な凹地を要するのでこれを求めるには一苦勞で内郷村に漸く見付たものゝ同村より炭礦方面は勿論多數の失業者があるので交換條件として五十名の人夫を使つて貰ひたいと申出られ事實において機械等を使用するので人夫は餘り要しないので應じられぬが斯くては捨場を借る譯に行かず他に探したところ湯本町に適地を發見しだので交渉を進めたがこれ又内郷同樣五十名の人夫使用を條件とされなやんでゐる矢先今度は平職業紹介所からも五十人の人夫を使つて貰ひたいと願ひ出られたので凹地は欲しいが人はいらず目下ホト〳〵困つてゐる樣である

除隊者を救い
各會社商店主へ
一除隊者

私等後輩は本年七月九日一部の者が歸休除隊と成りましたが、大部分は來る十一月三十日滿期除隊であります。

本年度甲種合格者も近來春入營する者が決るでしよう、私も先年除隊して只今農業に從事して居ります軍隊を恐れて居る人が多い樣でありますが、決して心配する事もありません。昔は私的制裁を加へた事も度々あつたさうだが只今は決してありません。私等現役中にもありませんでした、心身の修養に非常によい所であり青年諸子が進んで行く所と思ひます。

然るに年々兵隊に入る事をきらい、苦痛の爲めか死道に入る者がある事を聞くが甚だ國家の爲め遺憾と思はれます、何んの爲め、國家に對する御奉公を嫌ふのであらうか、決して御奉公を嫌ふ者一人だに無いと思ひます。

然らば何んの爲めかそれは皆社會が悪いからであります、軍隊に行くのを、のがれ樣と神に祈つたり、佛に念じたりするのは何故でありましよう、私の考へを擧げて入營者の爲め、又今年度除隊者の爲めに御後援に預り度いと思ひます。

我々が毎日商業に工業に農業にと安心して自分の財産を守つて居て思ふ樣な活活の出來るのも何んの爲めでありますか、又世界三大國の一に數へらるゝは何んの爲めでありますか、皆忠君愛國の軍隊あるからであります、軍隊あれども支那の如き軍隊では國民は安心して居る事が出來ますまい最近の各新聞を見ても御承知の事と思ひます、支那は雇入制度の軍隊でありまして、自分の身が危くなると逃げて行き自國の敗戰等は與らに考へない、然るに我が國の軍隊は歩兵操典にもある如く前進〳〵で退く事を知らない、故に今でも世界各國の的と成つて居るのであります。

何時でも國防の第一線に立つ時は生きて二度と日本の太陽を見ない、滿州の土と成る覺悟で御奉公して居るのであります。

如斯き軍人に職業の安定を與へないから神に祈つたり佛に念じたりする、不心得の者が出來るのであります。

入營當時迄或る職業に就いて居ても除隊して直ぐに元の職業に入る事が出來ず失業者となつたりします。何んたる馬鹿げた社會でありましようか、例へば入營前鐵道員として月收五十圓位あつたものは入營しなければ五十三圓とか五十五圓とか必ず進給して居ます、然るに國家に軍人として國防の第一線に立つた爲めに今は日給七、八十錢位であるとか甚だしきは失業して喰ふに困るとか又は入營當時迄官廳に判任官として月收六十圓も貰つてゐた者が入營する爲めに退職し失職して行かなければならん、除隊しても現職に就く事が出來ん、同じ官廳に奉職しても臨時雇で任官するには二年とか三年とかかゝる。

同じ階級に有つた者が進給して居るにも拘らず、御俸給にして一年餘も國家の爲めに御奉公した爲に職業の不安を感せしむ何んと考へても社會が軍隊に對する觀念が薄い爲ではないでしようか、八千萬同胞の爲めに御奉公して安定した職業が一時に不安となり粉骨碎身御奉公した者に一段の心配を掛ける事は御氣毒の次第と私は考へます。

如樣な事のなき樣各位が御後援して安心して國防の第一線に立たして戴き度いと思ひます

如斯〳〵一ヶ年半とか二ヶ年とか身を投じて國家功勞者に除隊後迄も苦しめ入營迄職業有りし者に迄で失業せしめたり或はより以上減給なする如き國家に對する不忠と私は言ふて斷じて過言でないと思ひます。

磐城青年
同盟會總會

廿九日午後一時より磐城青年同盟會總會を新舞子に於て開催し欠員中であつた同會長に木村守江氏を萬場一致當選せりと

石城各濱定置漁業
收益なく中止
今年の如き不漁は稀
漁業各濱大こぼし

石城郡各濱は大資本を投じ大量漁獲をなす定置漁業が急速に發達し豐間、小名濱植田、四倉と連接した双葉郡久之濱の五ケ所に大敷網並に角網が張られ豐漁を豫想されてゐたが其の結果は甚だ悲觀すべきもので豐間小名濱は潮流の關係か豫期外の豐漁を見る事が出來ず僅々一ケ月間に三萬圓の收益を見て一番有望視された四倉の角網は過般の洪水に依つて被害を受け事業中止のやむなきに至つた次に植田町小濱の大敷網も成績が思はしくなく之れまた本月初めから事業を中止して了まつた、豐漁になれば一網で一萬圓位の利益を見る事の出來る大敷網が今年の如く不漁の事は珍らしいことで原因は潮流の關係といはれてゐるが、此大規模の大敷網が不漁なため各濱とも活氣がなく唯鰹漁が僅に各濱漁業家の活氣を添へてゐるだけである

平國調映畫

平町では十二日午後七時より元商業學校庭に國勢調査主旨宣傳の活動映畫を公開す

平町滯納整理
當局手を燒く

平町では四年度後期分の町税滯納者に對して目下滯納處分を行つてゐるが、經濟界の不況から滯納は年年增加の傾向にあるので町當局でも全く手を燒いてゐる、滯納額の主なるもの左の如し

戶數割四、七〇一圓、營收附加三八三圓、家屋税附加五八二圓、營業税附加五一四圓、雜種税附加一、八九〇圓

池澤巡查榮轉

平署勤務武道師範池澤三郎氏は十三日午前十一時平發で福島署勤務に榮轉する

濱通りの水害
復舊費十萬圓
平監督所調查成る

濱通り一帶を襲つた過般の暴風雨の被害は各方面共に相當激甚で平土木監督所を始め各町村當局郡農會各公共團體等が被害調查を急ぎ應急救濟策を考究中であるが十日までに終了した平土木監督所管下の被害調查に依れば

	被害個所	概算工事費（圓）
縣工事地	一三	一七、三〇六
應急工事地	二	一、八〇七
町村補助地	一五	一七、三〇八

駈落に應援
探しに行つて首を絞める

石城郡内郷村大字川平二三高木明重の內縁の妻遠藤きぬ(三三)は明重が浪花炭礦に出稼ぎ中山形縣上ノ山町生れ土工齋藤孫七(三〇)と醜關係を結び去月十五日きぬは次女きみ(二)を連れ情夫と駈け落し双葉郡龍田村大字上繁岡、岩淵安治郎方に同居中を明重が突きとめ、九日安治郎方を訪れた所安治郎は明重の頸を絞め一時昏倒させた隙にきみを逃走させたので十日安治郎は富岡署に召致され取調べをうけた

平第一校
臨海學校通信（六）

濤聲も朝の海岸も風情のあるものである、例の朝の體操を終れば、三艘の鰹船より水揚された鰹の山を見る、

濱の人の聲も、一種特別な底力ある聲に競賣されてゐる。一山一圓、一圓五十錢の鰹「オラ明日家へお土產に買ふかナ」「明日どれつかナ」とも歸る考が出てゐるらしい。

金澤先生が見ゐる、中島寫眞屋さんは昨夕おそく來られてとまられた。そして一緒に午前の海に出る。「平泳ぎ」「ノシ」の一通りの泳ぎを終り、磯と、水の記念寫眞をとる。

午後、一寸引地先生のお顏が見ゐる。

潮はさしかけ、少しく荒れ氣味の海に、傳馬船に横田先生の船頭さんで乘りまはる。

おやつにキャラメル。

歸ると四倉水產實踐學校の生徒と、先生方の野球戰が開かれた。

敵投手のボール物凄く、打者枕をならべて打取られる。その度毎應援隊の猛烈すぎる程の聲援、

戰は吾軍利あらず六回裏まで二點をリードされてゐたが、俄然、七回の表で二點を入れて四對四の對スコーアとなつた。

夕闇はます〳〵深く、ボールは見えない。

眼鏡先生の多い吾軍ます〳〵苦しむ。

かくして七回裏に進むとう〳〵五對四に吾軍は惜敗する。

緊張した氣分のいゝ試合であつた。敵軍の統整と意氣は十分敬服に値する。

夕食終れば、最後の茶話會が開かれた。

臨海學校の感想、うれしい思ひ出、苦しい、かなしい思ひ出、こも〳〵出でて樂しい夕を送る。

そして、愈々最後の一夏の樂し、夢を結ぶ、多分お家の夢でもあらう。

朝鮮人と手を携へ
人妻の家出
平署に捜查願

山形縣最上郡鮭川村大字川口字繪馬河大久保溜池工事場居住海藤喜久藏(三三)は妻トメノ(二六)長男富雄の兩名搜查方を十二日平署へ願出たトメノは去る三日午前八時頃富雄を背負つて溜池工事請負主へ喜久藏の賃銀受取に行つたまゝ戻らぬのである同郡金山村大字板橋字鹿野海藤淺藏方に泊り居るものと思つて居た處五日淺吉が來て家へは來ないと云ふので大騷ぎとなつたがトメノは情夫である朝鮮人鄭滿守(二七)と手に手を取つて平方面へ逃走した事が判明し右搜查願ひを提出したものである

訂正● 昨十一日夕刊の自動車の轢逃げ平署に突き出さるの記事中平町鈴木自動車部とあるは湯本町鈴木自動車部の誤に付き右訂正仕候

磐城新聞社

湯本校同窓會

湯本町小學校同窓會は小學校內

四倉鰹船
鰹獲高
最高一萬一千

四倉町鰹船の七月末日迄の本年中の漁獲金高は最高長谷川長八氏所有(稻荷丸)一萬一千圓、長谷川淸九郎氏所有(靜明神)七千三百圓、鈴木幸平氏所有(四十八社丸)六千七百圓、長谷川富次郎氏所有(長門丸)六千五十圓なりと

朝日新聞の
飛行機
四倉に飛來

來る八月十七日東京朝日新聞社所有飛行機(朝日)が立川より仙臺に向ふ途中四倉町海岸に着陸するが當日は宙返り其他各種の妙技ある筈にて今から前人氣を招んでゐる

四倉海水浴場
遺失物

七月廿日より八月十日迄で二十日間に亘る四倉海水浴場に於て遺失物件數は十二件金額合計十四圓七十五錢で主なるものは金側時計二個なりと

入山炭礦で
落盤壓死

石城郡湯本町傾町入山炭礦長屋居住田村郡大越村字下大越田子屋生れ坑夫大越源重(三二)は十一日午後四時頃第五坑で作業中落磐の爲壓死した死體は八時間後午後十二時發見された

高坂校の
校旗授與

十五日午前九時から石城郡内郷村高坂小學校同窓會は小學校内で開催し校旗の授與式を行なふ

情婦沙汰で口論し
頭部に傷害
赤井村の年增男

石城郡赤井村大字西小川字るど堂平居住郡山市柳内生れ柳生彦四郎(三四)は同當地居住坑夫佐久間辰(三九)と茶呑中同當地居住坑夫佐々木惣之助(四六)が泥醉し來たり口論中柳生の投げた茶呑茶椀は柱に當りその破片が佐々木の後頭部に當り長さ約二寸の巾四分骨膜に達する裂傷を負つた原因は八日午前六時頃選炭場で作業中佐々木の妻フヨ(四五)は柳生の妻フサ(三二)に貴樣は俺の情夫を寢取つたなと口論の末は掴み合ひとなりフヨは轉んで顏面に傷を負つたのを夫柳午に告げたものでその結果右記の事件を引き起したものでフヨと柳生は赤井村高萩小松醫師の許に入院中である

石城販賣組合
廿日總代改選

石城郡販賣利用組合では來る廿日午前九時から午後三時までの間に平町外十二ケ町村で總代十九名の選擧を行ふことになり十一日それ〴〵通牒を發したが組合員數現在九百二十名である

平驛の
現業委員
來廿日選擧

平驛關係の現業委員選擧は來る二十日頃執行の筈であるが機關庫四名驛二名、車掌詰所、檢車所、保線區等各一名の定員に對し候補者は早くも十二三名乘りあげ競爭猛烈となつてゐる

開店一週年記念

一九三〇年八月十二日

此の券御持參になられて御來店の御客樣に限り

時計修理料金半額

期間八月十二日ヨリ二十三日マデ十日間!!!

平町七橋通り
セーコー堂

ヒゲタ醤油

特約店
平町田町
廣瀬支店
電話五四番

平町田町
高久病院
電話五一三番
醫學士 高久忠
新潟醫學士 赤溯滿
藥劑士 佐竹菊雄
內科小兒科
外科花柳病科
耳鼻咽喉科
レントゲン科

平新川町十九
木村病院
電話一六四
產婦人科 院長 木村寅次郎
內科外科 女醫 木村コウ
內臟外科 整形外科 醫學士 松永憲一
藥局 東京藥學士 萩原駿二